

陳述とお願い

2006年12月4日

原告 瀬川和子

1 私の履歴

私が生まれたのは日中戦争（支那事変）勃発の前の年で、1931年の満州事変から数えた15年戦争の最中でした。そして1941年に始まった太平洋戦争の終戦（1945年）を9歳で迎えました。以後60年余りの長い戦後を、日本の第二の開国（明治維新を第一として）とその後の経済大国に向かっての成長期と共に生きてまいりました。

疎開先から上京して、世田谷は三軒茶屋に中学生から住み始めましたが、1961年に音楽の勉強のため、西ベルリンに給費留学いたしました。その後ドイツ駐在中の主人と結婚してからアメリカ、フランスへの転勤を含めて、ほぼ25年間の海外生活を終えて帰国しましたのが1992年、今から14年前になります。

2 小田急高架反対運動

その時から今の住所に住み始めましたが、利用駅の経堂や豪徳寺を含む複々線化の高架反対運動に携わっていた友達から、「地下になれば、成城学園前から梅が丘まで、緑道にも出来るのよ」と云われた事が今の私の考えや行動の原点です。

それから10年余り「小田急高架と街づくりを見直す会」の一運動員として裁判の傍聴などに通いながら、日本の公共事業と街づくりにからむ市民運動と行政の戦いの現場を見てまいりました。1994年に事業認可の下りた小田急の高架化は、どんどん進み、成城学園前から梅が丘までが複々線化され、6駅の新しい駅舎が、どの駅も特徴なく似たり寄ったりになり完成されていきました。

高架の構造物の景観が将来どう評価されるか、コンクリートによるヒートアイランド現象が地球温暖化を加速させていることを危惧すると同時に、税金をつぎ

込んで目先の利便性と環境破壊に走る行政の姿勢に、やり場の無い憤りを感じながら現在に至っています（写真資料1）。

3 下北沢の街づくり

2001年に梅が丘から先の複々線計画（世田谷代田ー東北沢）が「地下化」と発表された時に、広い線路跡地を含む下北沢の街がどうなるのか心配になった私は、シモキタを愛する若い人たちと考えたり話し合ったりする場「Save the 下北沢」に自然に参加していました。

一方で若い仲間の新しい情報手段で下北沢問題が国内に留まらず世界に広く広がることに感動し、建築や都市計画の専門家も立ち上がって行政に要望書や代替案を提出した段階で、街づくりが市民参加の形に移っていく可能性が見えたように思えました（写真資料2）。

しかし、行政を交えての市民、専門家間の話し合いの場（ラウンドテーブル）は実現しないまま「補助54号線」と「区画街路10号線」の事業認可も下ろされて、今や下北沢の街は幅26メートルの道路とバスターミナル・ロータリーを含む駅前広場の行政案に向かって変貌しようとしています。

小田急線跡地の利用計画はいまだに公開されていません。公共交通であり、いつもお客様へのサービスをうたっている小田急電鉄株式会社が、行政を隠れ蓑に自己本位な跡地の利用を推し進めることは理解に苦しみます。

この跡地をどう利用するかが駅前広場にも、道路計画にも深く関わって来るはずで、そこにどんな建物が建つのか、何が出来るのかは下北沢の街全体の形状を決める大きな要素になることは疑えません。小田急電鉄を含めた住民と行政の話し合いの場が設けられて当然です。

下北沢地区地区計画における用途地域変更と容積率の緩和からは、再開発で高層化する下北沢の姿も見えてきています。

東京はエンドレスな再開発・高層化が進んでいて、修復の決まった赤レンガの東京駅上空の空間が売買された分、高層ビルの高さ制限が緩和されるといった特

例まで生まれている昨今、「低さを売り物にする街」があってもいいではありませんか。

日本人はとかく真似が上手く、皆同じがいいと思っている、といわれます。パリの有名ブランド「HERMES」の社長が「なぜ銀座をシャンゼリゼと同じにするのか？」と不思議そうに話すのをテレビで見た事があります。確かに最近は銀座に限らず表参道も六本木も似た様な飾りつけのショーウインドウが多く、外国にいるような錯覚におちいるほどです。

「シモキタが同じ様になっては日本人の恥だ！」と私は叫びます。

4 裁判所へお願い

私は、道路事業地内に居住しているわけではありません。しかし、補助 54 号線は、将来環状 8 号線の先迄延びる計画があると聞きます。現在の私の住所の近くを通り、他の道路とつながって住環境が悪化することは確実です。

必要の無い道路の建設には絶対に反対です。私の様な考えを持ち、同じ様な立場の者が、下北沢が壊されていくのを黙って見ていられないと立ちあがっています。取り返しのつかぬ街が出来ないために、ここで関係者の叡智を集めることが必要です。

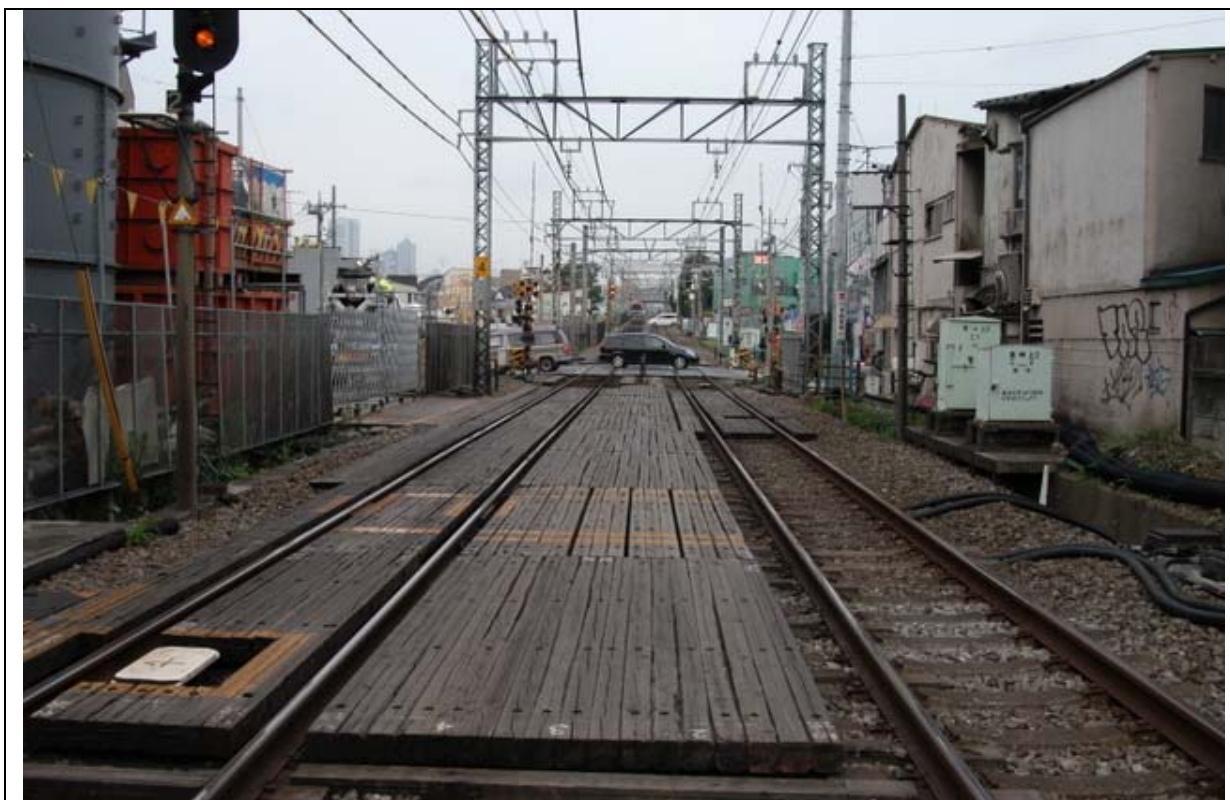
お願いの一つは、行政、小田急、商業者、住民、専門家等が、話し合いの上で計画をもう一度作り直すことを前提として、現在の計画の違法性をきちんと指摘していただきたいことです。

二つ目は、出来る限りスピーディーな裁判の進行をお願いしたいと思います。

私も高齢者に属しますが、下北沢には 30～40 年の長きにわたって小田急の高架化／地下化による心理的苦痛を経験された年配の方が大勢居られると聞きます。そんな方々のためにも、一日も早くシモキタらしさを残した、世界に恥ずかしくない下北沢地区計画を提示しなくてはならないと思います。

何分よろしくお願いいたします。

以上



1. 下北沢付近の小田急の線路。
複々線化されて地下化されるので、この倍の敷地が空地になる。
この空地进行をぜひとも街のために有効活用すべき。



2. 名立たる都市計画の学者が集まり、
行政の再開発計画の見直しを求め、市民が提案した代替案を支持した。